ヒューストン日本語補習校体験学習　つづき

クラレアメリカ

11月11日（土）、ヒューストン日本語補習校の4年生40名と先生方がクラレアメリカに来訪されました。

本年は化学プロセスを児童たちにより理解頂くため、近隣化学工場のトレーニング施設にもなっているSan Jacinto Collegeの施設にて、施設見学と化学実験を行いました。

社会科見学は、諸注意とクラレについての簡単な説明からスタート。普段は製品自体の影に隠れがちな“素材”がどのように生活に役立っているか、また弊社で伝統的に行っている『ランドセルは海を越えて』などのボランティアイベントなどを紹介し、児童たちにも弊社を身近に感じて頂けたのではないかと思います。

次に、各自保護具を着用した上で、弊社のエンジニアおよびCollegeのボランティアの皆さん同行のもと、College内の設備見学へ出発しました。College内には化学工場を小規模にした設備が多数あり、エンジニアの説明の元、子供たちがそれら展示の装置に直接触れたり（安全なもの）、ガラス製の装置からなるプロセスを液体が駆け巡る様子をメモを取りながら興味深そうに見ている姿が印象的でした。

見学後は、実験パートに移りました。1つ目の実験は、活性炭を利用した脱色実験です。今回2つの細孔（穴）の大きさが違う活性炭（粉）を用意し、色水から色素を取る実験を行いました。色水にこの“魔法の粉”を入れることにより、色水が透明になっていく様子をみて、児童たちの「わー！」という驚きの声を沢山聴くことができました。また見た目は同じでも、活性炭の種類の違いにより取れる色素が異なるという“不思議”な体験をしてもらいました。

2つ目の実験は、水に溶けるフィルムを利用した「スーパーボールすくい」です。このフィルムは、Tide PODSなどの洗濯用洗剤や食洗器洗剤の包装として使用されています。児童たちに、溶けやすさの異なるフィルムを張った2種類のすくい網を渡し、20秒間でどちらが多くスーパーボールを取れるか挑戦してもらいました。子ども達は、1つでも多く取ろうと、開始の合図とともに素早くすくいだし、非常に熱中していました。

今回短い時間ではありましたが、この社会科見学を通し、児童たちに化学の奥深さをお届けできたのではないかと思います。この社会科見学が、児童たちの理科への興味を深め、学ぶことの面白さを感じる一助となれば幸いです。

（クラレアメリカ　鈴木孝生）

ヒューストンバレエ 舞台裏見学記

11月11日、ヒューストン日本語補習校中学部3年16名と高等部30名の生徒たち、教員3名と松崎運営副委員長は、加治屋百合子さんがプリンシパルのダンサーとして所属されているヒューストンバレエに行ってまいりました。今回は、年末恒例の「くるみ割り人形」の公演を控えたご多忙中にもかかわらず、加治屋さんのご厚意で、補習校にとって初めてのバレエ団舞台裏見学が実現しました。

補習校生徒たちは、最初に1階のホールに案内され、ヒューストンバレエの概要を説明してもらったあと、中3と高校生の二手に分かれていよいよ建物の上階へ。

まずスミスストリートの上をまたいでWortham Theaterに架かる2階の渡り廊下を見学し、衣裳部屋へと移動しました。部屋の奥の方までびっしり並んだ棚には、箱が天井まで整然と積み上げられています。壁側には大手手芸店顔負けのロールになった布が山と積み上げられ、ひとつひとつの布には、どの作品の誰の衣装に使った布かがわかるようにタグが付いています。素敵な舞台衣装が吊るされた衣装ラックの間を縫って進むと、大きな作業机が所狭しとおかれた広い部屋に行きつきました。外壁側がガラス張りで明るく、数人のお針子さんが楽しそうに作業をしていました。遠くからでは見えないような小さい花やレースやビーズなども、一つ一つ丁寧に手作業で縫い付けるそうです。

そのあと、廊下からレッスンの様子を拝見していると、加治屋さんがいらして解説してくださいました。補習校生徒のためにご自分のレッスンを中断してきてくださったそうです。建物内の見学がひと通り終わり、いよいよ加治屋さんのお話と質疑応答の時間になりました。上海のバレエ学校やカナダのバレエ団、ニューヨークのバレエ団を経て、10年前にヒューストンにいらした経緯や、バレエ以外でも、補習校生徒との共通点として、語学を身に付ける重要性もお話しくださいました。生徒たちからは、バレエに関係することもしないことも質問が出ましたが、どの生徒にも丁寧にわかりやすくお答えくださいました。

舞台の上で華やかに優雅に踊っているダンサーの陰には、日々の厳しいレッスンと、そのレッスンや舞台を支える3倍の数のスタッフがいます。見学に参加した生徒の中には、まだ一度もヒューストンバレエの公演を見たことがないという生徒もいましたが、舞台裏を見て、トップダンサーのお話を聞いた後に、公演を実際に観ればこの見学は完結です。また、加治屋さんのお話から語学やその道を究めることの大切さなどの気づきを得た生徒も多かったようです。このような素晴らしい機会をくださった加治屋さんとヒューストンバレエのスタッフの皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

（ヒューストン日本語補習校　中学部3年担任
佐藤暁子）